

実践事例

学年	2年	
教科名	国語科	
単元名	ともさんはどこかな	
指導計画 (全4時間)	1	人物を探す手がかりとなる事柄が分かり、大事なことを落とさず聞いたり話したりする。
	2	
	3	大事なことを聞き落とさないように話したり、メモを取りながら聞いたりする。
	4	
本時の目標	人物を探す手がかりとなる事柄が分かり、大事なことを落とさず聞くことができる。	
防災の視点(※)	(B)災害時を想定し、大事なことを聞き落とさずに話したり聞いたりできるようになる。	

本時の展開(1/4)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. 校内放送や朝の会のスピーチなど、話を聞くときに気をつけていることを話し合う。	<p>○日常的な活動について想起させることにより、課題を身近に感じられるようにする。</p> <p>※地震が起こったときの教師の指示や校内放送を思い起こさせ、大事なことを聞き落とさずに聞くことの重要性を感じさせる。</p> <p>○お知らせは、何度も聞けないことを伝え、集中して聞くことを促す。</p> <p>○拡大コピーした挿絵を使って、全員で「ともさん」を確認する。服装の色だけでは判別が難しい場合があるため、付属品などにも目を向けさせる。</p> <p>○二人の迷子のお知らせ文を比べ、ヒントとなった言葉の共通性に気づかせ、次時のお知らせ文作りの見通しをもつことができるようにする。</p>	
2. 単元のめあてを確認する。		
3. 迷子のお知らせを聞いて、「ともさん」を探す。		
4. 「ともさん」を探す手がかりとなった言葉を話し合い、大事なことを確認する。		
5. お知らせを聞いて、他の迷子を探す。		
6. 手がかりとなった言葉を話し合い、問題作りへの見通しをもつ。		

実践事例

学年	2年	
教科名	国語科	
単元名	ことばあそびをしよう	
指導計画 (全1時間)	1	折り句作りや言葉遊び歌の音読を楽しみ、文字を組み合わせて文を作ったり、言葉の意味に気をつけて読んだりする。
本時の目標	折り句作りや言葉遊び歌の音読を楽しみ、文字を組み合わせて文を作ったり、言葉の意味に気をつけて読んだりすることができる。	
防災の視点(※)	(B)平仮名を組み合わせて、防災に関する言葉を作ることができるようにする。	

本時の展開(1/1)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
<p>1. 本時のめあてを確認する。</p> <p>2. 教科書を音読し、「あいうえお」「あかさたな」の表現と題名の関係に気づく。</p> <p>3. 五十音の中で、自分が書きたい部分を選び、その音で始まる作品を書く。</p> <p>4. 自分が作った作品を、ペアやグループの友だちと紹介し合う。</p> <p>5. ※防災に関する言葉を作る。</p> <p>6. 「ののはな」「ことこ」を音読する。</p> <p>7. 読む区切りを考えたり、アクセントを変えたりしながら、何度も声に出して読んで言葉遊び歌のおもしろさを楽しむ。</p>	<p>○自分が選んだ五つの音を、言葉の句切りに関係なく並べている場合は、言葉の意味を意識させるように指導する。</p> <p>○グループで紹介し合ったあと、全体で紹介する際に、教師が読んで聞かせて、言葉のリズムのおもしろさや楽しさが伝わるようにする。</p> <p>○個人で作ることが難しい場合は、ペアやグループで話し合わせる。</p> <p>○どこで区切るといいか、線を引かせたり、漢字で書かせたりして考えさせる。</p>	<p>●低学年向けの防災に関する本</p>

実践事例

学年	2年	
教科名	国語科	
単元名	みんなできめよう	
指導計画 (全8時間)	1	よい話し合いをするために、学習の見直しをもつ。
	2	話し合いの仕方と、話し合いをするときに気をつけることを整理する。
	3	
	4	
	5	話し合いの話題を決め、自分の考えをもつ。 話し合いでの自分のめあてをもつ。
	6	話し合いのルールに沿って、自分の意見を理由と合わせて伝えたり、友だちの意見を最後まで聞いたりする。
	7	
	8	自分たちの話し合いの仕方を振り返り、反省点をまとめ、今後の学習で気をつけたいことを伝え合う。
本時の目標	互いの話を注意して聞き合い、話題に沿って話し合うことができる。	
防災の視点(※)	(B)自分たちの生活の中から身近なことを出し合う場面で、非常持ち出し袋についてもふれ、話し合いの話題の一つとする。	

本時の展開(5/8)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. 本時のめあてを確認する。	○「話し合い」の話題探しに時間がかかることがあるので、話し合いの話題は、学級の実態に応じて事前に考えておく。	●非常持ち出し袋 (見本)
2. 話し合いの話題について決める。	※非常持ち出し袋の中身について話し合うことを伝える。	
3. 話し合いをするときの自分のめあてを書く。	○めあてを児童自身が決めさせ、グループ内で発表させる。 ○児童が意識できるように、めあては2つ程度に限定する。	
4. 話し合いの役割分担を決める。	○グループ内での司会は、順番に誰もが経験できるようにさせる。	
5. 話し合いの話題を確認し、自分の考えをまとめる。	○自分の考えをもつことが難しい児童には、幾つかの考えの中から選択させるようにする。	
6. 学習を振り返り、次時の学習の見直しをもつ。		

実践事例

学年	2年	
教科名	算数科	
単元名	水のかさのたんい	
指導計画 (全8時間)	1	普遍単位の必要性、有用性
	2	単位「デシリットル」の意味 身の回りの容器に入る水の体積をdLを使って表すこと
	3	単位「リットル」の意味、1L=10dLの関係
	4	LやdLを使って、体積を表すこと
	5	単位「ミリリットル」の意味、1L=1000mLの関係
	6	体積の加減計算
	7	1Lのますを作り、いろいろな容器に入る水の体積を測定する活動
	8	しあげ
本時の目標	算数的活動を通して、学習内容の理解を深め、体積についての興味を深める。	
防災の視点(※)	(B)体積を表す単位について知り、1日に必要な水の体積を考えられるようにする。	

本時の展開(7/8)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. 本時の課題をとらえる。	○1Lますを作って、いろいろな入れ物に入る水の体積をはかることを知り、学習の見通しをもつ。	●1Lのます ●ペットボトル ●やかん等測定するもの
2. 1Lのますを作る。	○1Lますの作り方をおさえ、作業がていねいに行われるよう助言する。	
3. 自作の1Lますを使って、いろいろな入れ物に入る水の体積をはかる。	○はかる前に、それぞれの入れ物に入る水の体積を予想させる。	
4. 測定した結果を発表し合う。	○予想した値と、実際の値を比較し、量感の確かさを身に付けていく。 ※災害時のために備蓄しておく水の必要量は、最低でも1日に3Lであることを知らせる。	
5. 学習のまとめをする。		

実践事例

学年	2年	
教科名	算数科	
単元名	時こくと時間	
指導計画 (全2時間)	1	「時刻」「時間」の意味や、時、分の関係を理解する。
	2	「午前」「午後」の意味や、日、時の関係を理解する。
本時の目標	「時刻」「時間」の意味や、時、分の関係を理解する。	
防災の視点(※)	(B)時刻と時間の概念、時、分の単位やそれらの関係を理解し、災害が起きた時刻、津波が来るまでの時間など、日常生活に用いることができるようにする。	

本時の展開(1/2)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. 生活と時計についての関心を高める。	○自分たちの生活と時計との関連を想起させ、学習への関心を高める。 ※災害が起きた時刻を知らせ確認する。	●模型時計
2. 「時刻」や「時間」の意味を知り、時刻や時間を求めるという問題をとらえる。	○「時刻」や「時間」の用語を知らせ、その意味を理解させる。	
3. 時間の求め方を考える。	○数直線や時計の図、模型時計などを使って、自立解決に取り組めるようにする。	
4. 考えを発表し合い、検討する。	○教科書の解説を基に、時間を求める手順を理解させ、ほかの時間も求めさせる。	
5. 1時間の意味を知り、1時間は60分であることを理解する。	○本時の問題に対するまとめをノートにまとめる。	
6. 適用問題をする。		

実践事例

学年	2年	
教科名	算数科	
単元名	長さをはかろう	
指導計画 (全7時間)	1	体の一部を使った長さの測定
	2	単位「メートル」の意味
	3	m、cmを用いた長さの表し方
	4	1mものさしを使った長い長さの測定
	5	「テープものさし」を作成し、長さを測定する活動
	6	
	7	学習内容の理解
本時の目標	算数的活動を通して、学習内容の理解を深め、長さについての興味を広げる。	
防災の視点(※)	(B)長さについての量の感覚を身に付け、海からの高さを想像できるようにする。	

本時の展開(5・6／7)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
<p>1. 本時の課題をとらえる。</p> <p>2. 3mのものさしを作る。</p> <p>3. 自作の3mものさしを使って、いろいろなものの長さをはかる。</p> <p>4. 測定した結果を発表し合う。</p> <p>5. 各班で自作したものさしをつなぎ合わせて、長いものさしを作る。</p> <p>6. 学習のまとめをする。</p>	<p>○3mのテープを配布し、3mのテープものさしを作ることを知らせる。</p> <p>○グループ全員で、1mや10cmの印の位置を確認し合いながら作業させる。</p> <p>○予想と結果の数値を書き込める記録用紙を配布し、予想欄に長さを書き入れることを確認する。</p> <p>○予想は、あてずっぽうではなく、手や指で10cmをつくった経験や本単元で養ってきている1mの量感を生かしながら行わせる。</p> <p>○予想した値と、実際の値を比較し、量感の確かさを身に付けていく。</p> <p>※海から学校までの高さを予想し発表させる。(本校の海拔11.8m) 町たんけんで見つけた海拔表示板を提示し、様々な場所の海からの高さを予想し発表する。</p>	<p>●海拔表示の写真</p>

実践事例

学年	2年	
教科名	生活科	
単元名	レッツゴー！町たんけん	
指導計画 (全13時間)	1	町にはどんなところがあるのかな
	2・3	町たんけんのじゅんびをしよう
	4・5・6	町たんけんに行こう
	7・8	町の人にインタビューをしよう
	9・10	見つけた町のすてきをつたえ合おう
	11	あつくなって町はどこがかわったかな
	12・13	みんながつかう場しよに行ってみよう
本時の目標	グループの探検計画にそって町に出かけ、人々と接したり、発見したりしながら協力して、安全に町探検をすることができる。	
防災の視点(※)	(B)町たんけんの際に危険箇所や注意が必要な場所など町の安全についても考えさせる。	
本時の展開(4・5・6／13)		
学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. 持ち物や約束事を確認するなど探検の準備をする。	○町探検のルールを確認し、探検することの大切さを伝える。	
2. グループごとに町探検に出かける。	※危険箇所や注意が必要な場所の確認も併せて行わせる。	●実際の地域の町中や道
3. グループごとに「探検コース」にそって探検する。	○約束を守って探検できているか、確認する。 ○探検メモを書くことよりも、よく見たり、聞いたりするよう助言する。	
4. 学校に到着したグループから、町探検で発見したことの情報交換をする。	○発見カードを書いたり、情報交換をしたりするとき、危険箇所や注意が必要な場所についても併せて確認する。	●発見カード

実践事例

学年	2年	
教科名	図画工作科	
単元名	しんぶんしとなかよし	
指導計画 (全2時間)	1	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙を並べたりつないだり、破いたり丸めたりしながら、紙の大きさや感触等を体全体で感じ取る。 ・新聞紙でどのようなことができたのか話し合う。
	2	
本時の目標	新聞紙という大きな紙の質感や特徴を体全体を使って味わい、広げたり破いたり丸めたりして形を変えながら思いついた形を作ることができる。	
防災の視点(※)	(B)新聞紙を丸めたり、破ったりして工夫しながら、災害時にもいろいろなことに利用できることを知らせる。	

本時の展開(2/2)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
<p>1. 前時までを振り返り、新聞紙でどのようなことができたのか発表する。</p> <p>2. 新聞紙を片付ける。</p>	<p>○広げてつなぐ、破く、丸める、細く長くする、包むなど、新聞紙は他の紙と比べると様々なことに活用できることを押さえる。</p> <p>※新聞紙で体を包むと温かく感じることなどに気づいた児童の意見を取り上げ、災害時に使用することができることを知らせる。</p> <p>○新聞紙は、くしゃくしゃになったものでも、他の活動で使用できるものもあるため、まとめて保管しておく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●新聞紙 ●テープ

第2学年1組 学級活動学習指導案

第2学年1組 18名

授業者 熊田 啓子

1 題材 「まもろう じぶんのいのち」

学級活動(2) ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

2 題材について

(1) 児童の実態

本校は海が近く、南海トラフ地震が起こった場合8mの津波が来ることが予想されている。そのため、学級の児童は、津波発生を想定した避難訓練を経験してきた。9月には園小合同で1次避難先まで避難する訓練も行っている。教師の後をついて避難することはしてきたが、なぜその経路を通るか、どこが危ないのかなど自分で考えて避難したことはなかった。また、1学期に生活科「レッツゴー町探検」では、福良の町を歩き、どんな施設やお店があるかを知った。公民館に行った際には、8mの津波到達点が掲示されており、津波が2階を越える高さまで来ることを知り津波の怖さを感じていた。しかし、福良地区の地形については認識しておらず、津波がどのように襲ってくるのかは、はっきりと知らない。

(2) 題材選定の理由

ジオラマは、まだ地図が見られない2年生にとって、福良地区の土地の様子が分かる教材である。扇状型で津波が大きくなる地形の特徴を分からせるためにジオラマ模型を使用する。自分の地区の周りにしか意識のない児童にとって、福良全体を俯瞰してみることで、津波がどのように襲ってくるのかが分かりやすいと考える。危険シートは、日常生活の中で災害が起こったときの様々な危険な場所や行為が絵で分かりやすく表現されている。町全体がシートになっているために、場所特有の危険や、様々な条件が重なっていることが絵から読み取れる。絵を手がかりに具体的な危険を見つけ、児童が想像力を働かせながらシミュレーションすることに適している教材である。指導については、まず、町探検で歩いたことを思い出し、ジオラマで地形を思い出させたい。ジオラマ上で避難訓練の行動を確認することで、より高く安全なところに避難することを確認する。自分たちの行動をジオラマで視覚的に意味づけする。次に、シートで置かれた状況が異なる10人の状況から、危険かどうかを判断する。危険な人にはどのように声かけをして避難させるか考えさせる。置かれた状況が異なる人物で命を守る行動を考えることで、今後災害に出会った時に、最善の方法を考えて避難する判断ができる児童に育てたい。そこから望ましい行動を考えさせる。危ない人にどのように行動すれば良いか声かけをさせることで、安全な行動をとれるように考えさせたい。

3 評価規準

3 観点をもとにした防災教育ルーブリック評価表に基づく。(別添)

4 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点(○)
1 DVD「津波から逃げる」を鑑賞する。	○これまでの津波の印象を頭に置いて、DVDの内容と自分の考えていたことを比べて鑑賞するように促す。
2 津波の特徴や怖さについて考える。	○波が低くても危険であることなどの特徴から、どのようなことが怖いのかを理由をつけて話させる。

5 本時の目標

災害時における様々な状況の中でどんな危険があるかに気づき、自分の命を守るための行動を考える。

6 防災の視点（※）

自分の身を守る行動につなげる（C）

7 本時の展開及び使用教材

◇防災教育学習教材「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！」（日本赤十字社）

福良地区ジオラマ模型図

児童の活動	指導上の留意点（○）・防災の視点（※）
<p>1 前時をふり返り、福良地区の土地の様子について知る。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<p>○前時の授業をふり返らせ、津波の際の自分たちの避難経路を、ジオラマ模型で視覚的に確認する。</p> <p>○扇状地であるために、津波がより高くなることを伝える。</p>
<p>つなみが おこったとき、自分のいのちをまもるには どうしたらよいか。</p>	
<p>3 津波を伴う地震が発生したときに危険な行動をしている人を見つけ、なぜ危険なのか理由を考える。</p> <p>人物②：茫然としている人 人物④：こわくて泣いている人 人物⑥：母親と車のある低い方向へ走る人 人物⑨：鞆を取りに戻る人</p> <p>4 津波後の町の様子を知り、人物⑩の行動について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐに避難したから。 ・周りをよく見て高いビルを見つけたから。 	<p>○グループごとに、シート「つなみもんだい」を使って、危険な行動をとっている人に×印を貼らせる。</p> <p>○なぜ危険かの理由と合わせて、どうすれば命を守ることができるかを考え発表させる。</p> <p>○シート「つなみこたえ」を提示し、海岸近くにいる人物⑩が助かった理由を考えさせる。</p> <p>○人物⑩と周りの行動と対比させ、海の近くにおいて走ってでも、適切に判断すれば命を守れることを押さえる。</p>
<p>5 本時のふり返りをする。</p>	<p>○本時で学んだ望ましい行動を合い言葉にすることを伝え、ワークに書かせる。</p> <p>○つなみてんでんこの言葉を知らせ、人とはぐれ一人になっても避難することが大切であると伝える。</p>

8 本時の評価

津波が発生したときには、自分の命を守るための行動をとることが大切であると理解することができか。

9 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点（○）
<p>1 みんなの合い言葉を全員に発表する。</p>	<p>○全員が考えた合い言葉を共有し、災害への意識の継続が図れるようにする。</p>